

## 議 事 録

町田商工会議所

作成者：産業政策課 田村

会議名	令和7年度町田商工会議所 経営発達支援計画評価会議	
開催日時	令和8年2月3日(火)	13:00~14:40
開催場所	町田商工会議所 2階 第2, 3会議室	
出席10人 (順不同・敬称略)	(委員4名) 前田進、太細貞治、鈴木俊太郎、鈴木専務 (オブザーバー：町田市2名) 朽木雄介、佐藤順一 / (事務局4名) 林、三田村、三堀、田村	

議 事 内 容	<p>1. 開会 (司会：田村)</p> <p>2. 委員長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)マネジメントコア前田の前田進委員長から挨拶、各委員自己紹介。</li> <li>※東京税理士会町田支部の支部長が安部氏より鈴木氏に代わり、新たに委員に就任。</li> </ul> <p>3. 議題</p> <p>(1) 令和7年3月21日付け経営発達支援計画(5か年計画)の概要</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営発達支援計画の概要、新たに更新された5か年計画について、事務局より説明。</li> </ul> <p>新たな事業の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域経済動向調査、需要動向調査(マーケティングレポート事業)。</li> <li>○経営状況の分析、事業計画策定支援。</li> <li>○事業計画策定後の実施支援(事業計画策定後フォローアップ)。</li> <li>○新たな需要開拓(看板商品プロデュース事業)。</li> </ul> <p>(2) 令和7年度実施状況について</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実績一覧表を基に実施内容について概要を説明し、今年度トピックスとして次の2点については詳細に説明した。</li> </ul> <p>◆ I-3 地域の経済動向調査に関する事 ※本計画から、町田市が主体となって実施。</p> <p>テーマを市内事業者の景況感を周辺地域と比較する」ことに重点を置いて実施。</p> <p>① 周辺地域との比較調査</p> <p>町田市独自では傾向が分からないため、周辺の相模原や神奈川県などのデータを調べ、町田市周辺の景況感調査と比較。</p> <p>② 商工会議所の各部会を通じて、生の声をヒアリング。</p> <p>ヒアリングを補完するため、商工会議所の公式 LINE やメール登録企業に対し、景況感に関するアンケートを実施。</p> <p>◆ I-4 需要動向調査に関する事</p> <p>新規事業「マーケティングレポート事業」の事業内容を説明。</p> <p>8事業者に対して、現状分析、販売戦略編のレポートを作成中と報告した。</p>
------------------	---

**【委員からの発言要旨及び事務局回答】**

(前田委員長)

- ・伴走型支援は単発のアドバイスではなく、戦略的視点を持ち、事業者と「伴走」しながら支援する必要がある。
- ・計画を遂行するにあたり、町田市は周辺都市（相模原、海老名など）との競争が激しいため町田ならではの魅力を創出する必要があると感じた。
- ・専門家1名だけでなく、複数名のチーム支援やコーディネーターを活用し、複雑化する課題に対応すべきである。

(太細委員)

- ・I-6.①事業計画策定支援について、目標15社に対し実績125社など、目標と実績に大きな開きがある理由について確認（事務局より補助金申請の影響と回答あり）。  
→補助金募集回数が影響をしていると事務局回答。
- ・I-7.①事業計画策定事業者向けフォローアップの頻度について、計画上の「四半期ごと（年4回）」という目標に対し、現状は達成できている企業とそうでない企業の差が激しいと感じた。
- ・支援対象者数を増やすことだけを追うのではなく、売上や利益が増加した事業者の割合（質）を高めることに注力すべきではないか。

(鈴木俊太郎委員)

- ・創業以外の事業者は経営資源がある程度明確だが、創業者は資金や情報の調達と事業立ち上げを並行して行うため、計画通りに進める難しさがある。
- ・事業計画策定の段階で、四半期ごとの目標を設定しておけば、フォローアップの際にチェックがしやすくなり、継続的な支援につながるのではないか。
- ・フォローアップ対象の事業者が増えている（26社）ので、単純計算で頻度（60回）の達成可能な数値と感じた。目標設定や運用方法に改善の余地があるのではないか。

(鈴木悟委員)

- ・全体的に非常に良い評価結果であり、職員の努力を評価できた。
- ・創業者支援の頻度未達（B評価）については、支援対象者数は十分にあるため、指導員全員が意識して取り組めば達成可能な数字であると感じた。
- ・次年度に向けて、この点を改善し「オールA」の評価となるよう取り組んでほしい。

(朽木、佐藤オブザーバー)

- ・町田市が実施した調査データ（地域経済現況調査等）を行政施策の根拠として活用したい。
- ・新産業創造センターは、オンラインや効率化重視の傾向があるが、商工会議所には「対面での伴走型支援」という強みがある。利用者からもその点が評価されており、差別化ができています。

**【評価会議の結果】**

前田委員長より各委員の意見を聴取し、まとめた結果、事務局案通りの結果となった。

(備考) 非常に良い成績（ほぼA評価）であるが、B評価となった創業者支援については、次回改善できるよう意識して取り組んで欲しいと評価を頂いた。

4. 閉会（太細委員）

次回会議

未定